

## 第 11 回県政ひざづめ談議結果概要

○実施日時：平成 22 年 10 月 22 日 14:15～

○開催場所：地域子育て支援センター きつずいちのみや

○対話グループ：笛吹市子育て関係者

○司会

知事が到着いたしましたので、県政ひざづめ談議を早速、始めさせていただきます。

はじめに横内知事からあいさつをいたします。

○知事

皆さん、こんにちは。横内正明です。

今日はそれぞれお忙しい中をお集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

皆さん方はこの笛吹市にお住まいになって、子育てをなさっている最中、あるいは子育てをなさっているお母さん方を支援しておられる、そういう方々と聞いておりました、ぜひそういう方々と今そういうことをやっておられる中でのいろいろな悩み事とか、あるいは子育てのこととか、そんなことを聞かせていただければなと思っております。

ざっくばらんにどんなことでもいいですから、日ごろお感じになっていることを、子育てのことはもちろんですが、それ以外のことでも何でも結構です。皆さん、市の行政と県の行政というものの、仕分けはわからないと思いますので、県の仕事ではなくて、市の仕事ということも多いかと思えますけれども、市の課長さんもおいでなっていますから、お答えできることはお答えをしていただけたらと思います。

そんなことで何か子育ての問題、その他行政の問題について、何かお気づきの点がありましたら、ぜひお聞かせをいただければありがたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○司会

それでは続きまして、今日同席しております、県と市の担当者を紹介させていただきます。

県で子育て支援などを担当しております、横森児童家庭課長です。

○児童家庭課長

よろしく願いいたします。

○司会

地元の市で同じく子育て支援などを担当しております、藤原児童課長です。

○児童課長

藤原です。よろしくお願ひします。

○司会

それでは早速、ひざづめ談議を始めさせていただきます。

○知事

子育てサークル「ぷちぴよ」。「ぷちぴよ」というのはどういう意味ですか。

○参加者

「ぷちぴよ」は、すごい歴史の長いサークルで、17年も続いています。私も入ったときにはもう「ぷちぴよ」という名前だったので、どういう理由でなったのかは・・・

○知事

「ぷち」って小さいですよ。ね。「ぴよ」だからひよこですか。

月3日間、日を決めて、そしてお仲間が何人かいるでしょうから、10人か20人はいるんでしょうけれども、子どもさんを連れていきながら、そこでいろいろな話をしたり、子どもの世話をしたりといったようなことをしておられる。

○参加者

私が入っているサークルは、月に3回あるんですが、そのうちの1回、イベントをしようというって、そのイベントは一般も招いてやるイベントであったり、サークルの中だけでお誕生日会だとか、クリスマス会、最近やったのは、芋煮会というものを、みんなで豚汁を作ったり焼き芋をしたりして食べたりとか、ハロウィンパーティーをしたりとか、あと2回は親子遊びをして当番を決めて、その当番が工作をしてくれたりとか、絵本の読み聞かせをしてくれたりとか、そういうことをして・・・

○知事

失礼ですが、お仕事は持っておられるんですか。

○参加者

いいえ、してないです。

○知事

もう、じゃあ子育てで専業でやっておられるんですね。  
子どもさんはお一人。

○参加者

3人います。

○知事

3人なら忙しいですね。大体、月3日ぐらい、そうやって会ったりするのが一番いいぐらいの感じなんですか。

○参加者

私たちはベストだなと思うんですが、子どもたちも1週間に1回、顔を会わせると、お友達の名前を覚えて、何々ちゃんとか、すごく仲良く遊んでくれる。1カ月に1回だと、久しぶりというようになってしまうんですね。

○知事

1週間に1回程度がね。

こうしたらいいとか、ああしたらいいということは、あまりないですか。

○参加者

サークルに助成金というか、お金じゃなくても、サークルで工作なんかをするときに、マジックペンだとかクレヨンだとか、そういう品物だけでもいただけた

りすると、とてもありがたい。

やっぱり会費がすごく上がってしまうので、そういうものを買ってしまうと、会費が上がってしまって、高いと入らないというお母さんがいらっしゃるので、そういうものがあると、工作するときなんかも、そのペンをみんなで使ってということができるかなど。

○知事

場所はここを借りるんですか。

○参加者

こことか、一宮のふれあい文化館というところが・・・一番下が和室なんです  
が、場所もかなり探す感じになって・・・ここは飲食もできておもちゃもあって  
いいんですが、その文化館は飲食ができるんですが、おもちゃがないので、みんな  
で重たいおもちゃを持ち寄ってやっているんですね。

だから飲食できて、なおかつおもちゃがあるところだと、すごくいいなと思う  
んですが、なかなか少ないので。

○知事

そうですね。

例えばその工作用のマジックペンというのはどのようなもの・・・

○参加者

私たちはマッキーとか、ポスカとか、そういう感じの・・・あと色鉛筆だとか  
クレヨンだとか、使って・・・あと、よく使うのは、手形を取るスタンプなんで  
すよ。でもそのスタンプがすごく高くて、なかなか買えないんですが、お誕生日  
会なんかは、やっぱり手形のものをもらえると一生ものになるので、そういうも  
のはやっぱり欠かせないなと思いますけれどもね。

そういう面でも助成金なんかの制度があったらうれしいなと。

○知事

そういうものは何か、なかなか県のお金というのは難しいですよ。何かない  
でしょうかね。

○児童家庭課長

消耗品的なものだとちょっと難しいですかね。

おもちゃのような備品だと、安心子ども基金の中で計画していただければと。

○知事

おもちゃは買えるんですか、備品で。子育てサークルの備品として・・・。

○児童家庭課長

そうですね。

○参加者

助成金してもらえるということですか。そういうことが難しいのであれば、施設、  
例えばここを借りるのであれば、この施設にサークル用として、その備品  
を用意しておいてもらって、それをレンタルというか、貸し出し、ここに常に置  
いておいて、どのサークルが使ってもいいよという形を取っていただくこともで  
ければ、少しは助かるなと思いますね。

やっぱり、サークル室として活動する場合に、無料でおもちゃがある場所というのは本当に限られていて、私たちがサークル活動をしているんですが、ここぐらいしか、そういうところがないので、ご飯も食べられてというところが本当はないので、ここは争奪戦になるんですね。

私は石和に住んでいるんですが、甲府のほうまで出張して、そちらの施設を借りて使わせていただいたりとか、そういったこともさせてもらっているんで、無料でおもちゃがあってという場所を増やして行ってほしいなと思います。

児童館でお昼が食べられないということもあるんですが、それは食べさせてもらいたいですね。

○知事

お昼をね。自分たちで持ってきて。

○参加者

持って行ってです。そうするとそういう場でも遊んで帰れるので、もう少し選択肢が広がってくるかなと思います。

○知事

児童館というのは通常、ご飯食べられないんですか。

○参加者

食べられないですね。

○児童課長

管理上の問題で・・・私どものほうでは飲食は遠慮させていただいているんです。

○知事

食べてもらっては困りますよと。

○児童課長

そうですね。

さっきちょっと話が出たような、ふれあい文化館とか、そういう規則の中でそれは検討していかなければならないんですが、やはり今言われた食事、飲食、そういったことはちょっとご遠慮を、ということになるんです。

○知事

このおもちゃだとか、そういうようなたぐいのものというのは、備品としては買えることができます。

希望があれば買えるということですよ。

○児童家庭課長

また市のほうと相談をさせていただいて、計画を立ててご用意というか、準備をしていくような形にしていきたいと思います。

○知事

だけどころいう部屋がなかなかないというのが困りますね。

○参加者

飲食ができるというのが、やっぱりポイントですよ。

おもちゃもちろんそうなんですが、飲食ができないから、使える施設がすご

く限られているんだと思いますよ。

○知事

やっぱり飲食ができないと・・・。

○参加者

そうですね。あと時間帯もそうだと思うんです。12時から1時というのは、大人のお昼ご飯の時間じゃないかなと思うんです。子どもはもうちょっと早い時間だと思うんです。保育園とか幼稚園とかに入る前の未就園児の子どもたちが、割とこういうところは利用すると思うんですが、そういう子どもたちにとって12時までお昼を食べないというのは、結構きついと思います。

なので、食事ができるということと、食事のできる時間帯、その2つをもうちょっと何か考えられるんじゃないのかなということが希望としてあります。

○知事

やっぱり食事は困りますよというのは、やはりいろいろなゴミが出たりとか、そういうようなことなんでしょうかね。

○児童課長

そうですね。そのへんにつきましては、また私どものほうも、全体で今6カ所やっているわけですが、児童館とかセンターとかですね。そのへんを精査させてもらうんですが、そういう要望があるということが今回わかったものですから、やはり管理上の問題という部分は、ご理解願いたいと思います。

○参加者

管理上の問題というのは、こちらの利用者側からすると、理解ができないというか、何で駄目なのかという理由をちゃんと教えてもらわないと、ただ一方的に駄目ですと言われても、何ですかと・・・結局は児童館の先生に言われて反発する、どうしてと・・・子どもがこんなにおなかがすいて、泣き叫んでいるから、ちょっとでも、例えば泣き止むようにお菓子とかをちょっと与えたい、それが何で駄目なんですかとなったときに、ちゃんと先生が理由を言ってくれば納得できますけれども、結局は親として自分の子どもに、ちょっとでも食べさせたいという希望をかなえられないというと、反発が先生のほうに向いてしまうと思うんです。

なので、できればそういった、何で管理上の問題がというところの理由でも、ちょっとかみ砕いて説明してもらいたいです。そうしないと、やっぱり一方的に禁止と言われても、納得できない問題だと思います。

○知事

厳しい意見ですが・・・筋の通った意見ですね。

○参加者

よろしいでしょうか。

境川児童館は指定管理を受けていまして、全て時間帯も関係なく飲食を可能としております。「ぷちびよ」さんだとか、他のサークルのメンバーの方に利用していただいているんですが、今言った管理上の問題というのは、施設の広さとか、そういうものも関係があると思うんです。

ほかの児童館の弁護をするわけではないですが、こっちで1組、2組がおやつを食べていると、どうしてもそっちに子どもが群がって行って、食べているみたいな・・・。

○知事

ある親御さんが子どもさんだけに食べさせていると・・・ そっちへ行っちゃうと。

だから食事室みたいな別の部屋がないとうまくない、そういうことですね。

○参加者

だから広さとか、そういうこともあると思いますね。

○知事

境川児童館は今、何か問題はあるんですか。

○参加者

いいえ、特にないです。

○知事

割とよく活用されているような。

○参加者

はい。地域性もありますけれども、もと村だったので・・・ 自然豊かで、環境のすごいいいところで、子どもたちも素直でほのぼのとしていて・・・ 横の連携も取りやすいですし、各機関とも連携を取りやすく、とても子育てしやすい地域だと思います。

○知事

食事の問題は検討してくれるそうですから。

ほかに何かありますか、どうでしょうか。

○参加者

今、一宮に住んでいるんですが、今年か来年早々に甲州市のほうに引っ越すんですが、そのときに子どもの医療費が笛吹市は小学校いっぱいまでになるんですが、甲州市はそうではなくて、5歳か6歳までとなっていたり、あと幼稚園の補助の金額も市によって違うので、甲州市に行くとすごく少なくなるんですよ。

その格差がもう少しなくなって、県で統一されればいいなと思うんですが・・・。

入ってくる税金が違うから、難しいと思いますが。

○参加者

格差で同じ意見なんですけど、たぶん皆さん思っていると思うんですが、予防接種なんかも各市町村によって、全然補助金額が違ったり、今、肺炎球菌というのは全く笛吹市はなっていないんですが・・・。

○知事

市川三郷とか、ああいうところはやっていますよね。ヒブワクチンもね。

○参加者

ヒブワクチンはもう来年から笛吹市は補助が出るという話ですけど、子宮頸がんワクチンを先駆けてやった山梨県だからこそ、ヒブワクチンも肺炎球菌も本当に早くに手を打ってほしいというのは、切実に・・・。本当に高いんです。

○知事

子宮頸がんと、それからヒブワクチンと肺炎球菌は、国が・・・。

○県担当者

ヒブワクチンと肺炎球菌が法定接種になれば地方へは地方交付税の形で面倒を見るような形になってくるのではないかと思いますけれども・・・法定予防接種にしたらどうだというような諮問委員会からの答申を厚生労働省のほうで受けている段階ですので、まだ確実かどうかというのははっきりとはしませんが・・・。

○知事

そうすると、法定予防接種ですと地方交付税の対象にはなる。

○参加者

子宮頸がんワクチンは3回打って4万5千円ですけれども、ヒブワクチン・肺炎球菌を全部に打つと7、8万円かかるんですよ。本当に負担になっていくんです。

○知事

それからさっきの子どもの窓口無料化なんですが、県は5歳、6歳でしたか。

○児童家庭課長

入院が未就学児、通院は5歳未満児です。

○知事

その上乗せを市町村がやっているんですよ。市町村長さんの判断で、自分の市は、これはすごくやるんだというところはやるし・・・県がどんどんやればということになるんですが、県もなかなかお金がないもので、その上は各市町村長さんの判断でお願いをしたいと思っているんですよけれどもね。

○児童課長

参考にいいですか。

笛吹市も23年4月を目安に小学校6年生まで拡大して実施する予定であります。

○知事

それじゃあ甲州市は低いんですね。

○参加者

小学校に入ると、もう補助はないので。

○知事

だから県とほとんど同じと。

○参加者

それでこの市はいっぱいそういういいところがあるからとか、甲府市はすごく面倒がいいからということで、笛吹市に住みたくない人とか出てくることもあるんじゃないかなど。

○知事

それはそうですね。笛吹市は、一生懸命、やっているほうですよ。

○参加者

幼稚園の補助も県の分があって、そこから各市町村で上乗せしているというこ

とですか。

○児童課長

文部科学省の補助になりますね。

今、質問された私立幼稚園就園奨励費の関係につきましても、笛吹市は平成21年度に増額させていただきまして、県下でも2つ目に多く補助を出していると・・・市の財政的な部分もありますし、補助金もあるはずですけども、増額はさせていただいている経過があります。

○知事

就学奨励金ですよ。あれは地方交付税というものに一応入っていて、したがって各市町村はそれを使って制度をつくらなければいけないんですけどもね、なかなかやっぱり全部はつからないんでしょうね。笛吹市はもうつくったと・・・。

○児童課長

つくりました。

○参加者

公立の幼稚園がないので、私立にしか入れなくて、そうなるちょっと。

○知事

県もそういう補助制度をつくってないところは、財政の一応手当はしてあるはずですからね、国のほうは。だから、その制度がないところはぜひそういうものをつくってくださいよということを一生涯懸命、言っているところなんですけれども、課長さんどうですか。幼稚園だから、あまり関係ないと・・・。

県もそういうつくってない市町村に、その制度をつくってくださいということは言っているんですよ。だけどなかなかやっぱり言うことを聞かないところもあったりして、少しずつ広まっているんですけどもね。

○児童家庭課長

さきほどの、子どもの窓口無料化の話ですが、甲州市は小学校3年生までになっています、入院・通院とも。

○知事

笛吹市は今はないけれど、来年4月から小学校6年生まで拡大すると・・・。

だんだん広がったらいいですね。

いかがですか、ほかには。

○参加者

「きつずみさか」をよく利用させていただいているんですが・・・さっきの児童館のことなんですが、このへんは児童館が、私からしてみるとすごく充実していると思うんですが、私は実家が都留市なんですが、都留市のほうとかはほとんどなくて、実家に帰ったときなんかは、行くところに困るような感じで、笛吹市にいと結構選択肢があるんですよ、子どもを遊ばせる場所。公園もたくさんあるし、児童館もたくさんあるし、イベントもたくさんやっているの、都留市とか、郡内のほうはほとんどなくて、結構車で遠くまで行かないと、公園もそういう支援センターみたいないところもないので・・・

でも場所はあるんですよ。

そこを「きっずみさか」みたいにしてくれたらいいのになと思う場所はあるんですが。

現在使われているところで、ちょっともったいないスペースだなというようなところが結構あるので、県内各地にそういうところを増やしていただけると、とてもいいなと思いますが。

○知事

それは保育園を増やすということではなくて。

○参加者

ではなくて、未就園児が行けるところ。

都留市のほうだと幼稚園の会合みたいなものが、ちらほらあるんですが、それ以外はほとんどないですね。

○知事

何か市もなかなかそういうものをつくり切れないところがあるんでしょうけれども、ボランティアグループみたいなものが、そういう市のちょっと空いたところを借りて、そういうようなサービスをやってくれるといいですよ。

○参加者

子どもを遊ばせる、無料で誰でも来ていいという場所はあるんですが、そこに行っても誰もいない。それだったら家で遊んでいる形になってしまうので・・・私たちがそういうところに行くのは、子どもを友達と遊ばせたいということもあるんですが、私たちがリフレッシュしたいとか、誰かと話をしたいとか、例えば「きっずみさか」に子どもを連れて行くと、私がちょっと困ったことがあると、先生達が相談に乗ってくれたり、お母さんたちもそうなんですが、こういうことがあったけれども、どうしているかと、みんなそれに答えてくれたり、ちょっと行き詰ってしまっているときは、先生が子どもと一緒に遊んでくれたりとかということがあるので。

○知事

都留市は子育て支援センターはないんですかね。

○参加者

そういう場所はないですね。

支援センターではないんですが、おもちゃ博物館じゃなくて、何かそういうところがあるんですが、何回か行ったんですが、誰もいないんですよ。何か私と子どもだけになってしまって、おもちゃはあるんですが・・・。

○知事

向こうのお母さん方はあまりそういうところを使わないんですかね。

都留市は保育園に併設されているところが4つもあるんですがね。

○参加者

保育園に併設されているところはあるんですが、曜日が限られていて、毎日来ていいとなっているんですが、例えば火曜日は何かする日があって、その日に行くとかたくさんいるんですが、ほかの曜日に行ってもいないんですよ。何かいつも誰でも気軽に来られるようなところが・・・。

○知事

保育園に併設されている、その子育て支援センターにはもちろん皆さんもおいでになることはできるんでしょう。

○参加者

はい。時々行くんですが、やっぱりみんなが集まる時間が限られていて、例えば10時から11時まで何か手遊びとかをやる時間だけしかないんです、人が。

○知事

なるほどね。

割とそういうものが少ないんですかね。

皆さん方は割とそういういろいろなサークルだとか、そういう支援センターとか、児童館とかに出でこられるからいいけれど、1人で子育てをして、少し引込み思案で、なかなかそういうところへ出でこられないという人が多いですよ、お母さん方でね。そういう方々というのは多いでしょう。どうですか。

○参加者

どこに何があるのか分かりづらい。できれば、そういう県内全部が載っていて・・、市外の方はその曜日以外駄目とかというところもあるんですよ。

なので、行ったらどこの市から来ても、未就園児を抱えているお母さんであれば、使わせてもらいたいなと思うんですよ。

○知事

やまなし子育て応援ネットワーク「はぴはぴ」のホームページには入っているんですか。

○参加者

まだそこまではしてないんですが、今、設立して、準備段階です。

○知事

そういうものを入れるおつもりはあるんですか。

○参加者

そうですね。本当は私たちみたいなNPOも含んで、子育て支援センターだとかいろいろなところを巻き込んで、ネットワークをつくりたいんですが、笛吹市はありがたいことにNPOとか、民間委託、それにつけて支援センターがある。でも県内を全部見渡すと、ほとんどが市町村の直営のところがあったりすると、ネットワークに入りませんかとか声をかけても、なかなか直営のところだと入りづらいというところもあったりして、今どういうようにして、みんなを巻き込んで、お母さんたちが一生懸命、子育てをしている中で、私たちがどういような支援をしていけるのかということをお県全体で、本当は、全体でレベルアップしてきたんですね。私たち支援者側も常に勉強したり、学んだりしながら、お母さんたちの声を聞きながら、県全体でレベルアップを図っていききたいということでネットワークをつくったので、今年は県のほうの委託で研修費をいただいて、この間もちょっと大きい研修会なんかも、課長さんにもいらしていただいて、大成功に終わったんですが、そういったものを今後も、この山梨県で子育てして良かったとかというように言ってもらえるような、そういう基盤をつくるために、

ちょっと頑張っていきたいなと思います。

○知事

そうですね。ぜひお願いしたいですね。

○参加者

児童厚生員の全国研修がありまして、私も行かせてもらって、全国の先生方と  
いろいろ話をさせてもらって、山梨県はすごい子育てしやすい環境にあるなとい  
うのは感じました。

都市の先生方は新聞とかテレビとか報道で聞くような、虐待とかそういうこと  
が目の前にあって、そういう対応で苦労されているという話を聞くと、山梨県は  
まだまだすごい子育てしやすい、いい環境があるなということを感じています。

○参加者

私は実家が神奈川で、山梨に越してきたのは半年ぐらい前なんですけど、実家の  
神奈川は支援センターとかに行くと100組ぐらいはいるんです。広いんですが、  
ごちゃごちゃ、おもちゃもごちゃごちゃ、人もごちゃごちゃ、ちょっと遊ぶとす  
ぐにぶつかるみたいな、そういう環境の中なんですけど、山梨はすごくゆつたりの  
んびりしていて、先生たちも何かゆったり見てくれて、一人ひとりの子どもの名  
前も知っているし、お母さんと子どものペアというか、そういうこともよく分かっ  
ているし、そういう意味ではすごく子育てしやすく、私は半年前に来て、ちょっ  
とこの間、出産したので、半年前に来て3カ月ぐらい里帰りしているんですけど、山梨  
にいるのはせいぜい3、4カ月ぐらいなんですけど、それでもそう感じるんですね。

ただ、1つ思うのは、雨の日に家の中で、例えば親子2人とか3人とかでいる  
のって結構きついと思うんですね。テレビを見るとか、家の中の決まりきったおも  
ちゃでずっと遊ぶ。それがずっと午前中も午後も続くとなれば、子どもにとっ  
ても親にとってもきついと思うんですけど、支援センターに行っても、何かいつも  
行きなれた支援センターみたいな感じになってしまったりとかすると、マンネリ  
してしまうと思うんですね。

特に雨の日に思うんですけど、体を動かせる、せっかく広いところがあるので・・・。  
体をもっと動かせる、もっと大きな遊具とかがあったらいいなと思うんですね。

地元のところにはクライミングウォールが支援センターの中にあったり、木の  
こういう球のプールがあったり、大人が入ると足の裏が痛いみたいな、そんなプー  
ルがあたり、とにかくすごく走っても大丈夫という、そういう施設があるん  
ですね。

そうやって支援センターでおもちゃで遊ぶ。こういう小さいおもちゃで遊ぶと  
いうことも、もちろんいいんですが、体を思いっきり動かして、発散して遊べる、  
そういう施設もあったらいいなと思います。

○知事

それはそのとおりですね。山梨はあまりそういうところがないですかね。

○参加者

私は山梨歴がまだ浅くで、ちょっと分からないだけかもしれないです。

○知事

あまり聞いたことがないですか、そういう大型遊具みたいな。

ボールか何かがいっぱいたまっているところへ、子どもがばたばた跳ねたり遊んだりしているようなところ、ああいうようなものが。

○参加者

うちも2歳4カ月になって、かなり走り回るんですが、各支援センターに転々と行かせてもらっているんで、どこに行っても先生たちもよくしてくれて、助かっているんですが、だんだん走り回るようになって、だんだん未就園児の中で上のほうになってきて、下の子が増えていくんですよ。ねんねとかはいはいする。危なくて、やっぱり連れて行けなく、だんだんできて、公園には行くんだけど、雨の日はあまり、天気が良過ぎる日は遊具とかが熱くなってしまって、外にも行けないみたいに。それで困ってしまうことは確かにあるので、今のお母さんみたいな意見は、すごく助かるので、してほしいなど。

あと外の公園のことなんですが、できれば夏とかは日差しをさえぎるような、あまりうっそうとしてない木というか日陰を・・・。

ここでちょっと遊具に触れるような木陰をつくっておいてほしいなど。

○知事

金川の森とかね。

○参加者

金川の森、いいんですけども、割と見晴らしがよくて、だだっ広い、遊具とかはあるんですが、子どもも熱がって触らない、滑り台には乗らないみたいな、そんな感じになってしまうので。

○知事

今年の夏なんかは特にね。

○参加者

なにか木があってよかったなと思ったので、行ってみたら木が刈られているとか、結構そういうところがあるので、できればそういう木を伐採、たぶん危ないから、あまりうっそうとして危ないからということで切ってくれていると思うんですが、木陰をちょっと残すとか、そういう配慮もしてほしいなと思いますね。

○知事

なるほどね。公園の管理も、やっぱりそういうことに気をつけないといけないですよ。

○参加者

フルーツ公園に行ったら、ちょうど遊具の上にある木にサコケがいっぱいいて、遊ばせられないと思って。

サコケって刺されるとすごく痛い、毛虫がいっぱいいて、それでもう遊具も・・・。

○知事

どうですか。

○参加者

今、屋内で伸び伸び遊べるというところという話があったんですが、屋外で子どもが好きに遊べる、木の枝とかでいろいろなものを作ったりとか、走り回って

秘密基地を作ったりとか、そういう場所があればいいなと思うんですが、公園はたくさんあるんですが、整備されすぎていて、制約がたくさんある。火をおこしたらいけないとか、もちろん枝とかを折ったら駄目だとかありますけれども、何かもっと子どもが外で、やっぱり2歳、3歳ぐらいの子が走り回れるような環境があればいいなと。たくさん場所はああると思うんですよ。

○参加者

今、「森のようちえん」というのがあって、うちの息子は去年まで行っていたんですが、長坂のほうまで行っていたんですが、そういうものが河口湖とかにもあって、甲府でも今やっていたりして。

○知事

その「ようちえん」は幼稚園なんですか。そうではなくて、そういう名前が付いている何か。

○参加者

幼稚園としてやっていたりもして、その長坂のほうでは週に4回利用していて、雨の日も晴れている日も、雪が降っても外で過ごすという感じで。カッパを着て。

○知事

これは連れていくのも大変ですね。

○参加者

大変ですけども、でも子どもはすごい喜んで・・・。

○知事

雨が降っても何してもやっぱり、外で過ごす。

○参加者

カッパを着て外で遊んで、午後も時々ちょっと中で見ているんですけども、雨の日とかは。やっぱり自然の中で過ごすからいい。

○知事

確か富士河口湖町にもそんなところがありましたよね。

○参加者

そういう場所が山梨県だから、自然に囲まれているところだから、もっといっぱいあってもいいかなと思いますけれどもね。

○知事

やっぱり一応、安全とかそういうことを考えなければいけませんからね。どこでもというわけにはいかないでしょうから・・・。  
そういうものがあるそうです。

○参加者

一緒に行きました。

でも遠かったんで、本当にそういう幼稚園に入れたいと思ったんですが、見学とか送り迎えとかできないんですが、でも笛吹市のほうでも山もいっぱいありますし・・・ そういうふうに伸び伸び枯葉の上で寝転がってごろごろしたりとか、

親子でそういうことができたらいいと思います。

○知事

なるほど。分かりました。後ろの方はどうですか。

○参加者

私は双子の子ども、小学校2年生の子どもがいて、下に4歳の女の子が1人います。笛吹市でも一番初めの第一子のとき、助産師さんが1回だけ訪問してくれたときがあって、先ほどおっしゃっていたように、こういう支援センターに来られない双子や三つ子のお母さんというのが多いんですね。1歳までの、まだ歩くことができない子どもを2人連れて大きな荷物を抱えて、こういうところに行くのはとても大変なんです。

できたら、多胎児支援みたいな感じで保健師さんなり助産師さんなりを、年に数回、自宅のほうにどうですかと声をかけてもらえたら、お母さんの煮詰まった気持ちも解消されるのではないかなと思ったんです。

私の場合は実家がすぐ近くで、私自身も双子で、母も経験者だったので、毎日のように通ってくれたので助かったんですが、そうではないお母さんとか、ファミリーサポートとかに頼んだとしても、やっぱりかかる金額は2倍なので、そういうところに頼めない。保育園にも早く入れたいけれども、未就園児で、保育料は4万円ぐらい、二人で8万円。それを稼ぐというのは大変なことです。夜泣きもあって、夜も寝られない。それはちょっと無理な話なので、それで断念するお母さんが多くて、双子、三つ子、それ以上の多胎児に対する支援がもうちょっと厚かったらいいなと思います。

○知事

そういう保健師さんとか、そうではなくてもボランティアなどでもいいんでしょうけれども、大体どこのお母さんが、どこにそういう子育てをしているお母さんがいるかということは分かりますよね、みんなね。

そういうところへ何か訪問するようなシステムはあるんですかね。

○参加者

1回だけ来てくれました。三人目のときは何もなく。一人目だけです。

○参加者

今は全部ある。

○参加者

三人目とかになると、来てくださいと、私が言って、それで来てくれて。

○児童家庭課長

こんにちは赤ちゃん事業がありまして、それで全戸訪問を毎年しています。

○参加者

愛育班というものがあると思うんですが、ただ愛育班のおばさま方は、一戸建てのお家が主体で、アパートとかマンションに入っている者に関しては、手薄になってしまうというか、なかなか訪問をしてもらえないというのが、ありますね。

○参加者

あとすみません、もう1件、先ほど予防接種のことが出たんですが、今、当た

り前のようにインフルエンザの予防接種が入ってきていまして、やっぱりうちみたいに3人いると、3人が2回ずつ受けるというのは、かなり金額がかかりますね。受けないときに、受けさせないのは親の責任だとお医者さんに怒られたときがあったんですが、予算的な、家の経営も成り立たなくなったら困るので、そういう補助的なものとかお金があるとすごく助かるなと思います。

○知事

予防接種は今、補助みたいなものはなくなったんですよ。みんな市町村がそれぞれ・・・。交付税というもので手当をしてあるということだから、それは市町村の判断でしょうね。

子ども手当はどうですか。

○参加者

すごくうれしいです。助かります。でも、今、その子ども手当を高くするより、みんながもっと使える、小学校に入ったら授業料はないけれども、でも給食費とかいろいろかかるといった、何かそういうものを子ども手当に払う分から出して、だから払っていただくと、いいんじゃないかなと。みんなが使えるものを使ってほしいとは思っています。

○知事

確かにね。残しておいてあげるよりも、そういう補助金も含めて、いろいろなそういうサービスに使ってもらいたいという意見が強いですよ。

○参加者

どなたもやっぱりすぐ生活費に回してしまったりとか、子どものために使うような、本当に子どものために使ってなかったりするのです。

○知事

どうですか。

○参加者

私は「きつずみさか」、御坂町の子育て支援センターでお世話になっています。「きつずみさか」の支援センターは、学童保育と同じ建物にあるんですね。なので、小さいお子さんを連れてお母さまが見えて、なおかつ学校が終わると小学生が帰ってきて、それですごく大きなお兄ちゃん、お姉ちゃんと遊べるから、それが楽しくて来るお子さまもいらっしゃいますし、子どもが帰ってくると、それじゃあ私はこれでという、ちょっと怖いので帰りますというお母さま方もいたりして・・・。

いいも悪いも、それぞれの需要供給がなっているのかなと。小学生の子どもたちも小さい子が来て、本当に普段あまり触ったり抱っこしたりできなかつたりするけれども、そういうことに触れあうことができたり、わざわざそういうことを企画しなくても、建物の中でそういうことができていて、とてもいいなと仕事をしていて思うんです。

○知事

「きつずみさか」はそうなっているんですか。

○参加者

はい。一緒に。

○知事

小学生ですよ。

○参加者

1年生から3年生まで帰ってきます。

ありがたいです。

○知事

ありがたいですね。だけど、いじめるものもいるでしょう。そうでもないですか。

○参加者

小学生は本当によく小さい子を見てくれると思います。いつもすごいケンカしているような男の子でも、一緒に座って何かあやしてくれたりとかという子がいたりすると、この子もこういう面があるんだと、ちょっと新しい発見があったりとかという面では、すごいいいなと思います。

○知事

学童保育を一緒にやっている場合は多いんでしょうかね。

○児童家庭課長

結構あります。

○参加者

2年生になる子どもが私もいるんですが、先ほどの予防接種の件で、日本脳炎がちょうど2年生の子どもは狭間で、全く受けられてないんですね。7歳半まではどうも受けられたらしいんですが、そこにもはまらなくて、今もう小さい子たちは始まっています、日本脳炎の接種が。あれもちょうど狭間の子たち、どこかはもう指定というようなことは聞いたんですが・・・実費を出せばしてくれるらしいんですが、やっぱりそのへんも家庭の事情があるので。

○知事

日本脳炎のワクチンを子どもたちは受けているわけだけでも、それを受けられなかった、ちょっと上の子どもたちがいるということですね。

○参加者

います。

ちょうどうちの子たちがしようと思う、その直前に中止になって、その後再開して、7歳半まで接種していいですよと聞いたのも、もう7歳半を過ぎてしまったあとだったので・・・。

ぜひ早めに予防接種の件を・・・。

○知事

そうですか。

厚生労働省、国が一律そういうことを決めてきますからね。

子ども手当でやってくれませんかと言うかもしれませんね。

日本脳炎の予防接種が受けられなかった狭間の子どもがいるんですね。

○参加者

私も今、双子を妊娠していて、初めての経験で、1人目はもう今度入園する息子がいるんですが、双子というのは初めての出産の経験だから、分からないことがすごく多くて不安なんです、とにかく情報が足りない。妊婦健診とか、あと出産のことというのは、ある程度分かっていたつもりなんです、双子、多胎妊娠ということの情報があまりにも……。そういう普通の施設とかママ友達とか、あとうちの母親の代とかも、もちろん経験した人じゃないと分からないということが多くて、すごく不安になったんですね、最初の頃。そのときにうれしいはずの妊娠が、すごく不安に思ったりとか、一番やっぱり不安に思ったのが、無事に産めるかということもそうですし、あと経済的に大丈夫なのかしらと思って……。今、妊婦健診が14回までの無料の券があるんですが、それで1人の妊娠に対しては14回の券でほぼまかなえるんですが、多胎妊娠の場合は普通の妊娠のときと違って、4週間に1回の健診でいいものを2週間に1回というように、ほぼ2倍近く、受診の回数が多いので、とても14回では足りないということと、あとその前段階で切迫早産になることの危険性が大きい。この間初めて双子サークルに参加したんですが、いろいろな人に聞くと、4週目で出血をして、切迫早産で3カ月入院したとか、保険に入っていたから、まかなえたからよかったと言っていたんですが、全くそういう保険のこととかも考えてなくて、普通の妊娠だと思っていたら、普通の一般の妊娠のときと、ケースがちょっと違うので、かかるお金というのは、多胎妊娠は本当に多いんですね。

3カ月入院すると100万円ぐらいかかったよということも聞いたりして、母体も緊急入院に備えてのこととか、上の子がいるから上の子を預ける先というのが、緊急の場合が対応できなかつたりということがあって、結局は実家に頼らなければいけないのかなというので、そういう多胎妊娠のママに対する助成とかサービスみたいのが少ないというのを今回痛感して……。普通の妊娠に対するサービスというのは、すごく充実してきてはいるんですが、多胎妊娠の場合は、1.5倍から2倍ぐらい費用がかかっていくというところに、一律のサービス、妊娠のサービス事業みたいところが適用されていて、もうちょっと考慮してもらいたいなという部分がたくさんあります。

#### ○知事

確かにね。2人だから倍にしてもよさそうなものですね。

#### ○参加者

実際の多胎妊娠が、1回だけで済むから、少なくてもいいじゃん。2人出産するときと考えたら、1回の出産で終わるからいいじゃんと言うんですが、多胎妊娠というのはプラスオーバーで結局倍ぐらいかかってしまうので、1回にかかる金額というのが2倍近くなるんですね。

なので、蓄えがないと、生活ができない。すぐに働けない。だけど保育園に預けたいけれども、預ける先がない。今度4月に上の子が入園なんです、4月に今度、甲斐市のほうにちょうど同じ時期に引越しをするので、今、保育園の手続きをしているんですが、広域入所という形で保育園に結局入れない状況になっていて、そうやって働きたいけれども、働けない。保育園にも入れられないという

感じになって、今すごく困っていて、甲斐市のほうは6カ月からじゃないと入れられないというがあるので、そういう情報を結構調べたら、不安なことが多くて・・・

双子だったら、保育園に入れられる規制を緩めてほしい。多胎妊娠の場合は、緊急入院とかで、結構早い時期に出産になってしまうので、普通の出産だと5月の出産予定が、4月に生まれたり、もっと早まる場合もあるので、そういう場合、今だったら保育園に入所できる条件が、産前3カ月となっているんですが、双子のママの場合は2倍ぐらいに取ってもらえたほうが、入れる時期をこちら側で決められるのかなと思うので、ちょっとそこを考慮していただきたいと。

○知事

お母さんが出産するときに、保育所へ入れるような制度があるにはあるんですか。

○児童家庭課長

結構、保育園によりまして、未満児さんを取っているところと取っていないところがあって・・・原則はその市内の保育園の入所というのは、市町村が窓口になっていて、市町村のほうに相談をして、それで、ではその条件に合ったところはここでしょうかというような紹介はしていただけないという形を取らせていただいているんですが。

○参加者

出産前3カ月とかというと、多胎妊娠、単体妊娠関係なく一律なので、よく聞くママが、上の子がいて双子ができた場合に、上の子を預けたいけれども、まだ未満児で、ただ出産の3カ月前に緊急入院になってしまったから、結局は旦那さんが出勤の前に実家に預けに行ってくれてということで、何とかやり過ごしたんだけど、そういうときに保育園というのが、例えば緊急入院する時期というのにかぶってもらえればありがたいかと、結構みんな言っていました。

○児童課長

今の話で一時的な預かり事業ということで、笛吹市の6カ所の保育所でやっていますが、約1,800人の方々が実績だと使っていますので・・・

○参加者

一時保育だと、週3回が限度じゃないですか。

○児童課長

申し訳ないですけども、これは保育課が担当しているもので、私はこの紙ベースでしか言うことができないんですが、一時預かり事業もあるということだけご理解ください。

もし、詳細であれば、保育課のほうに連絡していただければ確認が取れると思います。

○参加者

今、笛吹市でも双子サークルを立ち上げてやっているのでも、出産したらぜひそちらのほうにも入ってもらいたいし、やっぱり同じ境遇のお母さんたちと話をすることで、不安もかなり解消されますし、双子育児の手抜きのやり方とか、ねん

ねしている子どもをどうやってお風呂に入れるかということから、全て教えてくれるので、ぜひそういうものも活用してもらいたいと思います。

先ほどおっしゃったように、うちの上の子の出産のときもやっぱり切迫早産で入院したりして、子どもたちも生まれてからNICUに入ったりして、200万円近くかかりましたよ。そのときは実家をお願いして出してもらって。ゆくゆくは返ってくるお金なんですけど、でもそのときに困りました。買ってきたいだけ返って言われました。

○参加者

ゆくゆくは返ってくるお金というのは、返ってくるものなんですか。

○参加者

出産一時金というんですか。2人分返ってくると思うんですが、今40万円ですか。それがたぶん2人分来ますよね。

○参加者

その200万円というのは返って・・・。

○参加者

私個人は保険に入っていたので、でも3人目のときはそれをしなかったんで、やっぱり実費で、3人目のときも切迫早産、1カ月入院したんですが、そのときもやっぱり50、60万円はかかりまして、それは実費になってしまいましたけれども。やっぱりお金はかかります。服をそろえるのにも全部2倍かかるし、ミルク代も全部2倍だし。

○知事

なるほど、そうですか。双子の場合にはやっぱりそうなんですわね。

○参加者

幼稚園・保育園の話で、今、私まだ子どもが1人なんですけど、働きたいなと思っていても、幼稚園に預けると、送っていくのも遅いし、帰ってくるのも早い。でも、それでは幼稚園代とか、本当にとんとんか少ないかぐらいしか働けない。

でももうちょっと働きたいけれども、保育園に預けるには条件が厳しすぎて、入れられないと。保育園のほうがまず両親がフルタイムで働いてないと駄目とか、そういうところが結構、待機児童が多くて、入れない規制が多いんですよ。

○知事

その話は初めて聞きますわね。

○参加者

結構空いているところは、定員に達してないところもあるみたいですが、それは家からちょっと遠いとか、やっぱりそういうこともあるので、もう少し保育園の数を増やしてもらうか、保育園の入所できる条件をもう少し緩和してもらいたいなど。2人目もつくりたいなと思っているんですが、フルでは働けないけれども、幼稚園ではちょっと少なすぎると思うので、もう少し働ける環境もつくっていただきたいなと思いますが。

○知事

保育園もそんなに入所の条件が厳しいなんていう話は、初めて聞いたけれども、

そういうことがあるんですか。

○児童家庭課長

基本的に保育に欠けるというのが条件ですが、フルタイムで働かなければ駄目というのはいないです。

○知事

それはたまたまあなたが行ったところが、きっと人気がある。

○参加者

たぶん地元で入れようとしているところが、たまたまそうだったのかもしれないですね。

○参加者

すみません、それで1つ。保育園の保育料というのは市で決められて一律なんですけど、保育内容というものが、あまりにも差があるというのをすごく感じて、それで笛吹市は民間委託をされているところが2園あるんですけど、あまりにも差がありすぎて、本当に市直営の保育所と民間委託をしている保育園というものの差がありすぎて、お母さんたちも、今のお母さんたちって情報をすごい持っているんで、あそこに入りたいと。同じ保育料を払うんだったら、そこにと。

○知事

どういうところのサービスが悪いんですか。市直営は。

○参加者

ちょっとした普通のことをやってくれないというか、例えば汗をかいたのに、着替えさせてくれないとか、のどが渴いているのにお茶を飲ませてくれないとか、そういうことは本当に、何か普通のことをやってくれる保育園が人気があるんです。

あと私たちが一番知りたいのは、子どもが小さいときはなおさらなんですけど、園でどのように過ごしているかということが一番知りたいんですが、園でこういうことがあったということをお話してくれない保育園がほとんど。

連絡帳はほとんど無意味というか、私は第三保育園に一時保育で子どもを預けたことがあるんですけど、第三保育園は毎日写真付きで、今日あったことを、こういうことがありました、クラス全体ではこういうことがありました、そしてその個人のその子はこういうふうでしたという様子をちゃんと書いてくれるんですね。

ほかの保育園の様子を、ほかの保育園には預けたことがないんですが、ほかのお母さんたちから聞くと、連絡帳といわれているものがあって、それに行った日にスタンプを押して帰ってくる。こちらから伝えたいことを書く欄すらないということが、ほかの保育園ではみんな、そして園の様子を聞くのに、先生のご機嫌を見ながら、今日は聞いていいかなということをお話しながらじゃないと、教えてくれないとか。

そういうことがあって、特に未満児で預けているお母さんは、子どもの言っていること、お話もできない子たちがいると思うんですけど、話ができる子どもでも、子どもの言っていることが正しいとは限らないと思うんですけど、そのときに先生が園の様子をお話してくれないというのは、不安だなと思います。

人気がある保育園みたいなところにちょっと研修に行くとか、見習ってもらいたいというか。

○知事

ちょっと専門家に聞いてみましょう。そんな保育園でサービス水準が違うんですか。

○参加者

そうですね。この間、県内の研修会をやったんですね。そのときに、来てくださった保育園の方たちは、ほとんど私立の保育園の先生たちでした。残念なことに行政関係、それから市直営の保育園の人たちは・・・その第三保育園の先生は来ていました。やっぱりその差ですよ。先生自身が、やっぱり何か学ぼうとか、子どもたちのためにという、その差がやっぱりちょっと今あるのかなど。公立の保育園は頑張らないと、と感じていますけれども。

○知事

そうですね。

○参加者

第三保育園って、太鼓とかやったりとか、そういう特殊なことじゃなくて、私も第三保育園に見に行ったときに、先生たちみんながあいさつをしてくれると、ニコニコしてくれれば、それだけで連絡帳にもし書かなくても、先生たちが温かく接してくれるだけで、ここへ預けていたら大丈夫だと思います。もし、先生たちの愛想がなかったりとか、あいさつとかちゃんとしてくれなかったら、ここでいいのかなという。何か特別に英才教育みたいなことをしてくれるというわけではないんですが、一つひとつの家庭の事情をちゃんと見てくれるというか、うちの子はこうなのでこうしてくださいということを言えば、確実にやってくれるんですよ。

○知事

偉いものですね、第三保育園とかね。

○児童家庭課長

自分が小さいときのことを思い出すと、昔ですから、公立しかなかった人たちですが、ちゃんと連絡帳にその日のことを書くのは私たちがお昼寝をしているときに保母さんたちが一生懸命書いてくれて持たせてくれたりとか・・・ちょっとそれが今のスタンプを押すだけとかということには、ちょっとびっくりですけどもね。

○参加者

今はそれがほとんどです。

○参加者

保育士の仕事をするほうの立場って、パートと常勤といるんですか、正職と同じ仕事量、同じ時間の量を、働いているのが今の現状だと思うんですが、今、東京とか、山梨県でも南アルプス市のほうは短期時間パートと、忙しい時間帯だけ、朝のパートさんとか、遅番のパートさんが2時間、1時間ずつでもちょっと働きたいという人もいると思うんですよ。

そういうように、短時間パートのときには、1日のパート料金ではなく、その時間帯だけ払えばいいから、そんなにパート料というものがかかってこないし、そのときだけ集中してやるので、仕事もしっかりとできたり、パートの忙しい時間、パートの人がいることで正規の職員は子どものことにかかわれるというように、東京ではもうだいぶ前からやっているみたいですが、そういう短時間パートをつくれれば、子育てしている、私もそうなんです、親もそのちょこっとの時間だけだったらいけると。仕事ができる。でも1日朝7時半から夜の何時までというフルには、ちょっと働けないから、仕事はできませんという、ちょっと短時間パートというものを考えていただけたら、ありがたいかなと思いますけれども。

○知事

それは各保育所の判断で当然できるんですよ。

○参加者

公立も・・・。

○知事

公立もできるんじゃないでしょうかね。

○参加者

交互に出たりしているのは、フルパートですよ。

○児童課長

申し訳ありません。

直接の担当ではないもので、先ほどから申し上げているように、確認させていただきます。

○参加者

南アルプス市の方で子どもとママと一緒に食事ができるカフェができたんですが、そういうものをいろいろなところに、各地にできていると、すごくありがたいなと思うんですが、私自身もやっぱり昼間は息抜きしたい。子どもと一緒にランチというと、なかなかファミレスなんか集まっても、騒いだりとか、お話しにもやっぱり集中できないし、どこかへ行ってしまったり、そしたら子どもとママのためのカフェというものがあると、すごく行きやすいし、お母さんたちもとても息抜きになるし、子どもにストレスを感じないとか、息抜きになるから子どもにあたらぬとか、そういうことにもつながっていくと思うんですよ。

そういうママと子どもと一緒に食事ができる、時間制限ということもあってもいいと思いますし、そういうところが各地にあると、すごくママたちは行きやすいんじゃないかなと。

○知事

確かにね。南アルプス市にあるんですか、それは。

○参加者

最近できて。

○知事

行かれたことはありますか。

○参加者

いいえ、まだ、私は遠いので、行ったことはないんですが。やっぱりお食事をしようかなと思って、じゃあどこに行くと言ったときに、でもあそこは結構、子どもが走り回っちゃうしねなんていって。

○知事

回りに迷惑をかけると思うからね、ついつい気を使っちゃいますよね。

○参加者

じゃあ個室だねと言っているんですが、個室があったとしても、下に堀があったりだとか、あと大人が来るような雰囲気であったりとか、おもちゃがあるところも、もちろんあるんですが、やっぱり私たちママたちだけが来るところじゃないので、一般のお客さんもたくさんいるので、ちょっと気を使いすぎるので。

○参加者

実はその親子カフェというのは、もう何年も前から全国的にはいろいろなところでやっていて、実は私たちのところでも何年か前から、アンケートなんかを皆さん、お母さんたちにイベントのときにさせてもらって、ちょっと私たちもそういうような話を進めてはいたんですが、南アルプス市にやられたなという感じで、先を越されたんですが、南アルプスは市の委託で行っているんですね。

実は私たち、何でそこがいいかというのは、今日来ているお母さんたちは、変な話、ほっといてもこの方たちは大丈夫です。アンテナがとても高く、常に今日はここの支援センター、今日はこっちの広場ということで、本当に上手に自分たちのライフスタイルの中にそういうものを入れていますが、やっぱり私たち今一番こういうところに来られない人たち、そこが永遠のテーマで、そこをどういうようにしていくかということ、ずっと私たちも考えてはいたんですが、実はその親子カフェというものが、東京あたりではかなりたくさんあるんですが、支援センターの敷居が高いと思う人がいるんですよ、中には。

その支援センター、そこには行けないんだけど、レストランとか親子で行けるようなレストランというと、目的が支援をされるという形ではなくて、ご飯を食べに行くとか、お茶をしに行くということで敷居がすごく下がるわけですね。そこに行って、そこにいろいろな情報のもものもあったりとか、そこにちょっとサポートできるような人たちがいるということ、そこでちょっと支援センターの広場を利用できない人、ちょっとその敷居が高いなと思っている人たちが、もうちょっと大きく言えば、本当に虐待とか、そういうところまで、ちょっと詰まってしまうんだけど、支援センターは行きづらいけれども、カフェは食べる場所、食べるのが目的なので、支援されるという形ではないという形で、導入されるというのは、来やすいかなということで、ちょっと南アルプス市のところも今度ちょっと視察に私たちも行ってくるんですが。

○知事

やっぱり、子育てサークル的な活動といった方々がやっているんですか。

○参加者

そうです。南アルプス市のところは、NPO法人ではないんですが、子育てと

かそういうものをいろいろやっている方たちのグループです。

○知事

やっぱりカフェですから、一応営業はしているわけでしょう。

○参加者

そうです。ちゃんとランチを出してやっています。  
新しい形だと思います。

○知事

東京なんかは多いんですか。

○参加者

多いですよ。東京だけでなくて・・・

○知事

なかなかいいですね。それは新しい形でね、広げたいですね。  
県も何か応援してね、そういうところへいろいろなおもちゃだとか遊具とか、  
そういうものを置いてあってね。面白いですよ。

○参加者

そうなんです、置いてあるんです。

○知事

食事の問題も解決するしね。

○参加者

県が腰を上げてくれればありがたい。

○児童家庭課長

この笛吹市の中につくるということであれば、やはり市のほうにまず相談して  
いただいて、そこで私どもの担当のほうにご相談をいただければ、ご要望にお応  
えできるような基金のいいものがございますので、ぜひそんなことでやってい  
ただければ・・・。

○知事

安心子ども基金が使えるんですか。

○児童家庭課長

使えます。

○参加者

たまたま知り合いがいて、センターに行くようになりました。たぶんその知り  
合いがいなければ、私はやっぱり敷居が高いというような感じでいて、行かなか  
ったほうだと思いますが、そういう親子カフェとか、そうすると行きやすいと思  
います。

○知事

キッズカフェとか、そういうカフェのものがいいですよ。  
確かにそれはそうですね。

○参加者

知事が暮らしやすさ日本一を目指していますけれども、ぜひ声を少しでもく  
み上げていただいて、底辺である子育ての環境をよろしく願います。

○参加者

今、私9カ月の子どもがいるんですが、一段落したら仕事をしたいと思っていますね。ただ、笛吹市からハローワークに行こうとすると、甲府まで行かなければいけなくて、すごく遠いんですね。

本当に遠いんですね。そのハローワークに行っても、結局、甲府のハローワークというのは、とにかく人が集まってくる場所なので、まず待たなければいけない。何か手続きをするのに、本当に時間がかかるんですね。

そういうところで、子どもを預けていこうにも、一時保育という、何時間かかるか分からないというところで、不便なところもありますし、ぜひマザーズハローワークを立ち上げていただいて、ハローワークの一環としてやっていただきたいなと思うんです。

この前、春日居で、先週ですか、出張ハローワークというものが託児付きであったんですが、何せ出てきた会社が少ない。子育て中のお母さんが行くようなところがなかったんですね。なので、そういうところへ参加したいけれども、行きたい会社がないから行けない。でも託児があるということで、すごくいい会だったなど、チラシも入って、思ったんです。

けれども、そういうマザーズハローワークがあれば、お母さんも仕事を見つけるにももちろんそうですし、託児もしながらゆっくりお仕事を探さることができるということで、すごい本当に利点があるかなと思うので。

○知事

その出張ハローワークというのは、マザーズハローワークだったんですか。

○参加者

いいえ、全然違います。普通のハローワーク。

○知事

出張できたわけですね。

託児をしているハローワークがあるんですか。

○参加者

出張ハローワークは託児所付きですと書いてあったので、いいなと思ったんですが。でもマザーズハローワークは山梨県にないので、ぜひ立ち上げてほしいと。

○知事

そうですね。ハローワークね。あれは国の施設ですからね。

確かにね、甲府まで行くのはちょっと遠いかもしれませんね。

○参加者

何か預けていくというの、やっぱりちょっとあれですし、仕事をしたいけれども、職業訓練校に入りたいというのを、そういうもので保育園に預けるということもできないので、そういうこともぜひ変えていっていただきたいなと。

○司会

だいぶ時間も経過しておりますが、言い残したこととかある方は。

○参加者

少子化対策ということで、今結構、国を挙げてやっていることがあるんですが、

子どもが増えるということは、イコール世帯人数が増えるということで、収入を得て、子どもが小さいうちはもちろんママは働けないというのが大前提に結構あるんですが、保育園に入れて働くということも、結局はお金がかかって、ただで預けられるものではないので、やっぱり保育園に入れるときにもお金がかかるのは旦那さんの前年度の収入とかというもので査定があって、その世帯のランクみたいなものがあるんですが、それで保育料が決まってくるので、子どもが例えば1人いて、それで預けるという家庭と、子どもが3人いて、3人一気に預けないから働けないという家庭があったときに、子どもでかかっていく生活費・育児のお金がかかっていって、だけど旦那さんの収入というのは固定になっている。

その旦那さんの一本の収入の額で結局は保育料が決まるといって、3人の世帯人数と5人の世帯人数で同じ保育料の算定といったら、例えば旦那さんの収入が少なくても20万円だったりとかした場合といときは、保育園に入れて働かないと、生活が成り立たないのに、結局保育料は3人の世帯人数の人と同じだけかかっていくというのが、ちょっとそのあたりが、世帯人数が多いところは生活もすごくかかっていく分、ちょっと同じ算定といものは、納得いかない。

○知事

世帯人数を加味して保育料を決めろということですね。

○参加者

一番上が全額で2番目が半額で3番目以降無料・・・。

○児童家庭課長

保育料の算定のときにも、同じ収入で3人子どもさんがいる方とお一人という方の場合に、扶養控除というか、そういうようなところで減額されますので、同じ金額にはならないと思います。

やっぱり子どもさんが多いと、扶養控除ということで、低い単価の保育料になるはずですよ。

○参加者

でも扶養控除というものはなくなるんですか、子ども手当が1万3千円とかと言っている。

○参加者

3人同時に入れば、同時にというか、かぶれば無料になったり、半額になったりしますが、そうではなく、例えば卒業して入園ですといったら、また一からじゃないですか。それをやっぱり2人目なんだから、やっぱり半額にしてほしいなというように思います。子育てでね、つくろうと思っても、なかなかできなかったり、仕事の関係でつくれなかったりとかということがやっぱりあると思うんですよ。だからそのへんもやっぱり均等というか、同じようにしていってほしいなとは思いますが、それでも。

○児童課長

それにつきましては、ぜひ1回、電話か何かして窓口に来てください。電話なら聞きにくいこともあるから、直接来てもらって、1回でクリアできるように・・・。また私も子育て支援マップというものを作成中ですので、それをまたお近く

のところで見ていただいて、情報をキャッチしていただくということで、お願いしたいと思います。

○司会

せっかく盛り上がってきたかと思いますが、残念ながらだいぶ予定の時間が経過しておりますので。

○参加者

最後に1つだけいいですか。

今、実はうちトイレトレーニングをしているんですが、トイレはあるんですが、大人のトイレしかない。補助便座というか、そういうものがなくて、子どもが嫌がったりしていて、まだ和式であれば、子どももそれほど怖がらないんですが、今大体、洋式のところが多くて、できれば公共施設とか公園ぐらいには、子ども用の補助便座を付けてもらおうとか、そういったことをしていただけると、すごく助かるなと思うんですが。

○知事

子どもの補助便座というものを付けてあるところもあるんでしょうか。

○参加者

ありますね。あるところはあるんですが、ないところはないですので、できれば県内各地にそういう形でしていただけると助かるなと思いますが。

○知事

例えば公衆便所、公衆便所ということとはともかくとしても、いろいろな公共施設みたいなどころへ。

補助便座は、普通の便座に何か置いてあるだけ。

○児童家庭課長

大人用の便座の上にちょっと子ども用のものを乗せられるような。

○参加者

あと、ねんねのときに、オムツ換えシートがないところもあるので、そのへんもぜひつくってほしいですね。なくて車の中で換えたとかということがよくあるので、お願いしたいですね。

○司会

今日の感想も含めまして、知事からまとめのあいさつを。

○知事

皆さん方からいろいろなご意見を聞かせていただいて、とても勉強になりました。やっぱり本当に子育てをすることは大変なことで、さまざまな多種多様ないろいろなニーズがあるんですね。

そういうものになかなか行政がきめ細かく応えられないんですが、そういうところはしかし皆さんとかがおられて、一生懸命やっただけでいる中、そんな指導をやっていただいているわけですが、こういう方のご意見も聞いたりしながら、できるだけかゆいところへ手が届くような行政をやっていかなければいけないと思いますね。

今日はいろいろとご意見を伺いましたけれども、県にできることはできるだけ

検討して、実現できるようにしたいと思いますが、本当にありがとうございました。

しかし皆さん方のそういう要望にしっかり応えていかないと、この日本の人口は増えないということですからね。我々もよくできるだけ対応できるように頑張りたいと思います。

それから、さっきおっしゃいましたけれども、確かに皆さん方はいろいろな場へ出てきておやりになっているから、そういう人はいいんですが、やっぱりそういうところへ出てこられない方々というのは多いですよ、ずいぶんね。そういうところは本当に心配なんです。

だからできるだけ、そういう人を一緒に、こういうところへ行きましょうよとか、そういう声をかけてやっていただければ、ありがたいと思いますよね。近くにそういうお母さんがいたらですね。

皆さん、どうもありがとうございました。

○司会

名残は尽きないわけですが、ひざづめ談議を閉じさせていただきます。  
ありがとうございました。